

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 11月 6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100447		
法人名	社会福祉法人広島光明学園		
事業所名	グループホーム高陽荘		
所在地	広島市安佐北区深川8丁目36-7 (電話) 082-842-2266		
自己評価作成日	平成29年8月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100447-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年10月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

自然に囲まれた生活の中で隣接施設との交流を持ちボランティアを含めた行事参加や外出などの行事を積極的に取り組んでいる。入居者様の機能を活かし個々の生活を大事にしている。排泄は入居者様の排泄リズムを把握し、トイレでの自立を目指しオムツ外しに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

緑豊かな山あい立地しゆったりとした生活環境がある。法人理念に「三宝一如」「本物をやろう！」を掲げ、利用者一人ひとりに目を向け、自立支援をしっかりと行う強い意を持ち日々の支援を行っている。また別にスタッフ全員で「楽しく仲良く」という独自の理念を考え、笑顔で利用者に嫌な思いをさせないケアをすることを目標に取り組んでおり、利用者にも笑顔が多くみられている。ケアではA3用紙で作成した1日のモニタリングを行う独自のケアチェックシートを活用しており利用者のその時その時の思いや状態の把握に有効な方式であり、個別に非常に深く目を向けた取り組みがなされている。提携病院や訪問看護事業所等との連携により安心して医療を受けられる体制もある。隣接の保育園・幼稚園をはじめ地域との交流や行事参加が多くあり地域に根差した事業所となっている。

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を共有し、管理者・職員は情報を周知し、統一したケアと入居者一人一人を理解しケア向上の実践につなげている。	「三宝一如」「本物をやろう！」を法人理念のもと、行事の時には必ず理事長から理念を踏まえた話があり理念の共有を行っている、それとは別にスタッフ全員で「楽しく仲良く」という独自の理念を考え、笑顔で利用者に嫌な思いをさせないケアをすることを目標に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	入居者が地域行事に参加したりイベントを企画するなどつながりを深め、地域の一員として日常的に交流している。	併設の特養やデイの利用者が地域の方でありその都度交流を持ち、町内会のごとの参加や施設のピアガーデンで地域住民を呼んだり、他のグループホームとの交流で一緒に神楽を見たりと地域との付き合いがある。公民館やスーパーの祭りに参加等多面的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	介護者教室をはじめ、地域の方や入居者の家族と交流の場を設け認知症の理解などに向けて活用している。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見でサービスを向上に活かしている。	家族の要望や地域包括支援センターの助言、現場の介護者の意見を出し合い、現状を分析と評価を行うことで個々にあったサービスの向上に活かしている。	メンバーに市職員、地域包括支援センター、地域住民代表、民生委員、家族代表がおられ、利用者代表や現場スタッフも参加して活動状況報告を行い、意見交換されている。民生委員より地域の情報を聞いた地域包括支援センターから成年後見の話が出て制度の利用に繋がった等運営に反映させている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行事や入居者の方々の近況のわかる情報誌を作成しておりご家族の方や地域の方々に周知し協力関係を築き取り組んでいる。	事業所にきて話をすることで情報を共有したりとしている。必要時は担当課とも連絡を取り確認している。地域包括支援センターは同法人委託の事業所であるが細かく来所され連携がとれている。	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者一人一人の個別ケアと拘束のないケアを行っている。職員間で拘束の勉強会で知識を深めケアに取り組んでいる。	研修や会議、身体拘束委員会での取り組みにて職員に周知を行い、リスク等何かあればヒヤリハットをあげ話し解決していくことが定着している。見守り重視で日々のケアから気を付け、柵に鈴をつけて気付いたり吸収マットを置いたり工夫や配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員間での意思と介助の質の統一をし、入居者の状態をしっかりと申し送ることによって虐待防止に努めている。また定期的な勉強会を開き意識を高め利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は勉強会や研修を通して制度や知識の向上と習熟に努めており、ご家族や入居者様の必要な支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族にはグループホームと他施設との違いなどをしっかり説明し質問・疑問にも答え、ご理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員間でも介護職員や地域包括支援センター事業所・訪問看護と連携をとり個別のケアを行っているが、担当者会議や、面会時に家族の要望も確認し家族に事故防止や健康維持の観点からご理解をして頂きケアに取り入れ運営に反映させている。	利用者からは普段からの関わりで要望を聞き内容を全員で共有している。家族にも面会時や来られない方にも手紙や電話にて意見を聞くようにし、帰りたいという方にスタッフが付き添い自宅に帰ったり、認知症にいいアロマがあると家族より情報をもらい実践する等サービスに反映した例もある。	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員間でケアの内容と質の統一を行い常に意見を出し合い提案を反映させている。	日々の業務の中でスタッフの気付きや意見をあげて話している。面談は行えていないが管理者からスタッフの表情や様子をみながら適宜声を掛けている。スタッフがスタッフルームで休憩することで利用者に目が届かない意見から一緒に過ごす体形に変えたり、人員配置にも考慮した例がある。	個別面談の機会を定期的に設け、スタッフ自身の振り返りや具体的な目標を定め、それに向かって努力できる様に支援やサポートを行うことや成果等の達成感を持てるようにすることで、より個の質の向上を目指した取り組みができることに期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員間で休日を融通しあい身体、生活ともに負担の少ない職場になるように心がけ働きやすい場として環境、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	それぞれの職員が様々なテーマの研修に参加し、その内容を勉強会や会議で共有し知識を深めていきながらトレーニングを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設の近況のわかる情報誌を作成して配布し、他の施設の広報誌を読んだりして情報交換に努めている。また行事への招待も行い交流を深めサービスの質の向上の取り組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	積極的に入居者に会話し要望を聞くだけでなく、日々の過ごし方や生活リズムを観察し介護士からのアプローチを行うことで信頼関係を築くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の方の話を聞く時間を十分に設け、その要望や不安の解消に努めている。また職員からもご家族へ適切なアドバイスや話をすることで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	職員間で情報を共有して統一したケアを行いより入居者に合ったケアを模索し訪問サービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と入居者で一緒に事業所内の家事を行い、生活を共にする印象をもって信頼できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の方にも入居者の状態や変化があれば細かく伝え、家族も常に最新の情報を持てるよう努めている。またその上で家族様も関わられるようなケア内容になるよう配慮しながら関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	プライバシー保護のための守秘義務を保持し家族、友人には面会に来やすい環境が持てるよう信頼関係の構築に努めている。またより外出や外泊がしやすい環境の整備に努め家族関係を良好な関係になるよう支援に努めている。	併設の特別養護老人ホームやデイサービスを利用している地域の方、知人との面会がありなじみの継続した交流がある。なじみのスーパーへ出かける等個別の支援も月の計画を立て行っている。	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや行事だけでなく日々の生活の中で家事のお手伝いや共有スペースで過ごす時間を多く持てるようにし、入居者同士、良好な関係を築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後の状態や情報を確認し、必要な情報や助言を家族や関連機関に伝えられるよう情報共有を行い支援に努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	様々なレクリエーションや行事の参加でその都度表情などから入居者の好きなことを感じ取れるように心がけている。他の事にも興味を持って頂き、より多くの事を好きになって楽しく過ごして頂けるように本人と一緒に検討している。	利用者との日々の関わりやアセスメントをしっかりと行うことで意向を確認しスタッフで共有している。本人からの確認が難しければ家族に聴取や本人の生活歴を考え、日々の利用者の行動にスタッフで関心の目をもち観察し、本人本位に考えた提案や介護計画も見直し反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者と絶えず会話し、その中からどんな体験をし、どういう仕事をしていたのかなどこれまでの生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者のペースに合わせ、寄り添いながら適時適切なフォローを行い現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者のできることを職員間で把握し、共通した介護ができるよう取り組んでいる。課題があればすぐに話し合い、本人の思いを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>記録も具体的な内容にて記載し、ケース記録とは別に毎日のモニタリングを行い日々の状態、変化や気づきが分かりやすく全員が把握しやすい形の優れた方式を使い行っている。気づきノートを作成し皆の意見をあげやすくし、毎月のカンファレンスでスタッフの意見を踏まえ計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>気づきノートを作りそれを活用しながら早めに職員間で話し合い対応できる状況と情報を共有しながら実践し介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>入居者や家族の希望、ニーズはできるだけ合わせるように意見を出し合い、新しいことができるようにサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の方々やボランティアの訪問には全員で参加したりしながら一緒に楽しみ充実した生活が送られるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>毎月の定期受診に加え、日々の変化にもすぐに対応できるように常にかかりつけ医とは連携をとっている。ちょっとした体調の変化にもすぐに気が付き対応できるように訪問看護事業所やかかりつけ医との関係を密にして迅速な対応ができるよう支援している。</p>	<p>入居時に希望のかかりつけ医を伺い、提携している協力医を含め利用者、家族に選んでもらっている。定期受診はスタッフが必ず付き添い受診している。往診や訪問看護との連携で急な体調不良にも対応でき、希望に応じ訪問歯科診療や鍼灸院の訪問も利用することができる。</p>	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員間で共有できる気づきノートを利用し個々の体調管理の上での問題点を拾いあげている。また訪問看護事業所とは情報共有し適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護事業所とは日頃からコミュニケーションを図り、相談を行いやすい環境作りに努めている。また細やかな情報を共有するように協力医療機関とも連携をとり関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	常に家族と利用者の意思を尊重することを目標に掲げ、状態の変化、家族の説明を行っている。施設の方針を十分に説明した上で入居者や家族の意向を職員間で支援に取り組んでいる。	看取りは行なっておらず入居時に施設の方針を説明しているが、主治医の往診や訪問看護との連携にて重度化しても可能な限り対応している。その状態を家族や関係者とも話をして少しでもできることは引き出せるように努めている。医療面で難しい時には法人の施設につなげることもできる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルの再確認を行うとともに定期的に急変時の勉強会を行い対応ができるように知識向上に努め日々実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に他事業所との連携を取りながら避難訓練を実施している。毎回担当職員を変更し全員が確実に把握できるように努めている。多種ある災害の防災マニュアルの見直しや改善を行い、適時適切な対応ができるよう地域との協力体制を築いている。	災害別のマニュアルがありハザードマップを踏まえた避難や法人内で協力体制も確立されており備蓄も地域住民用も含め完備されている。毎月避難訓練を夜間の想定にて実施しており、運営推進会議を同日の開催に合わせて行い会議のメンバーや地域の方にも参加してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者は人生の大先輩という認識を常に持ち敬う声掛けを心がけている。言葉使いや対応に十分留意し勉強会をしながら職員の質の向上に努め、プライバシーを損ねない対応をしている。	定期的な研修・勉強会を実施し、其々なじみの生活や個人を尊重した関わりを意識し、名前を呼ぶときは必ず～さんと呼ぶがフレンドリーに対応する場面を含め窮屈になりすぎない様な声掛け等管理者を中心にチェックしていく体制がある。意向を聞きながら自己決定できる自立に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の意思や希望をを把握しニーズに応えることができるように職員の意識付けを行い自己決定にできるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は業務優先にならないよう入居者様目線で働きかけるように維持していくよう努めている。入居者のペースを過ごし意思を聞きながら希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者や家族に好みの物を聞き、季節に応じておしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者は個々の能力を活かし下膳やテーブル拭きを行っている。残存能力を維持のため補助具を利用するなど自身の力で行っている。	食事は法人の厨房で用意し各ユニットで利用者と一緒に盛付けや配膳、片づけを行う。月に1度食事会にて食べたいものを料理したり、畑で採れたり地域から頂く野菜が食卓に並び話題や楽しみのある食事がなされ、残存能力を意識した介助支援や利用者同士で助け合う共助の関係がある。	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や形態など個人に合わせて提供し、水分量も確認しながら体調管理に努め、入居者に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の義歯洗浄や歯磨きを行い入居者の能力を活かし困難な方にはお手伝いをしながら口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者の排泄のリズムを把握しトイレでの排泄を促し自立した生活を送って頂ける支援を行っている。	個別に排泄記録を取りながら状況を把握しトイレ誘導や交換を行い、多くの利用者が布パンツで過ごせる等安易にオムツに頼らず、本人に少しでも自分でまだできるんだということを感じてもらい自立心が芽生えるような取り組みに力を入れ成果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	職員は入居者個々の便秘の原因を突き止め、毎日排便状況をチェックして体を動かしたり果物など提供して排泄を促し予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調や精神状態に合わせて注意しながら一人一人ゆっくりと入浴して頂き入居者に入浴するタイミングを聞きながら支援している。	入浴の曜日は決まっているが時間は利用者本人に合わせた設定にて行っている。週に2回以上を基本としているが入りたい希望があれば随時対応し入浴できるようにしている。入りたくない方には話をしながら思いに沿った対応を心掛け、入浴剤の活用等ゆっくりとお風呂を楽しめるよう実践している。	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	生活習慣を把握しゆっくりと休 んで頂ける環境を作っている。ま た部屋の湿度や温度に気を付け 管理を行いながら良眠できるよう 支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	入居者の医療情報に基づき薬の 作用や副作用が確認できるように している。変更時は申し送りノ ートに記載し情報共有と確認に 努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	入居者の一人一人ができること や希望していることをお手伝い し充実した生活を送って頂ける よう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	月ごとに職員同伴で散歩や外食 、買い物を実施している。入居 者の生活リズムを大切に、ボラ ンティアや地域の協力を得なが ら楽しみのある生活を送られる よう支援している。	買物は希望を聞きながら随時行 っている。朝の散歩もプラン中 で計画に行っており、家族の協 力を得ながらお墓参りに行ったり 個人の思いをくみ取る意識を持 ちながら外出支援を行っている。 地域より祭りの神輿が来たり等 の交流がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	入居者が望む生活が継続できる ように家族の了承と協力の上、 ご本人が管理されたり買い物時 はご自身で管理し支払いを自身 ですて頂くように助言しながら 支援している。		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>入居者個々によって電話を取り次いだり、職員が声を掛けながら自身が管理し連絡を取ることができるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節ごとに職員が入居者に快適な生活が維持できるように支援している。また室内温度を調節し体調管理を行い、居心地よい生活空間を提供し工夫している。</p>	<p>暖色系のピンク色で温かいイメージを意識した室内に施されており、トイレのドアも緑で利用者にも区別が付きやすい。季節の作りものが飾られており、玄関には利用者と生けた花が常時飾られている。テーブルも3つゆとりを持ち配置されており、ゆっくりくつろげ穏やかに過ごせる空間づくりになっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有部分で各自が過ごすスペースを持ちテレビや景色を眺めたり会話ができるようにくつろげる場所を確保できるように居場所を工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>日常生活の場として安心できるように入居者の思い出のある家具や持ち物を使用し、落ち着いた雰囲気の中で居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>備え付けのベッド、クローゼットがあり、そこになじみのある物を持参し飾り付けをされており、個々の部屋として落ち着いて過ごせるものとなっている。掃き出しの窓から彩り豊かな山間の景色を眺めることができ、全室に時計が備えつけられ季節や時間の流れ等日常を意識できる自分らしさのある生活がある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自立歩行や車いす、歩行器など安全に利用できるようにバリアフリー化され見守りや付き添いを行いながら自立した生活を送れるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目(もみじ) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム高陽荘

作成日 平成29年11月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	11	スタッフとの個々の面談で考えや本人の取り組んでいることがうまく聞き出せていない。	スタッフ個々のケアの質を向上を目指します。	定期的に面談を行います。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。